

## 第2学年3組 国語科学習指導案

平成28年7月7日 第5校時

在籍 男子19名（内7組男子2名） 女子14名

### 1. 単元名 書写「行書を書いて確かめよう」

### 2. 単元について

日常生活では、さまざまな筆記具を使って文字を読みやすく速く書く能力が求められる。書写の主たる学習事項は、文字を正しく整えて速く書く、そしてその力を学習活動や日常生活に生かすというものであり、さらには、学習指導要領の改訂により、文字を書くことを伝統や文化としてとらえる視点が新たに加わっている。

これから、書写学習においては「文字を書くことについて深く考える活動」を重視し、「書写とともに学ぶ」姿勢がいっそう大切となる。文字を書くことを通して思考・判断・表現していくなかで、自ら学び、自ら考える力につながる「生きる力」「伝え合う力」を育むこと、他者に対してのコミュニケーション力の育成を目指すことが重要とされる。手書き自体が大切な文化であるということに視点をあてて、「書写する(書く)」ことの大切さを教えるとともに、「書くこと」を通して何を伝えるか、「書くこと」がいかなる役割を担ってきたかを教えることが強く求められている。

### 3. 指導観

#### ○ 生徒について

対象学級は情緒学級の生徒も含め33名で構成されており、生徒は比較的全員大人しい。国語の授業では、ほとんどの生徒が自ら率先して発表したり、発言したりすることが苦手な傾向にある。しかし、ひとりひとりが学習内容を習得し理解しようとする姿勢は机間指導などで見て取れる。書写に関しては、日常の学習活動において、字を丁寧に書こうとする意識にばらつきがあり、課題などの字を乱雑に書いてしまい、字形への配慮に欠ける生徒もいる。既述したように、「書写する(書く)」ことの大切さを身につける工夫が必要となる。

#### ○ 本単元では

行書の特徴である「点画の省略」を理解し、その筆遣いを実践する。既習事項である行書の特徴を、復習として再び楷書と比較しながら学習する。生徒は、行書の特徴を理解し、その特徴を生かしながら表現することに十分に慣れていない。そのため、いきなり二字以上の課題を書かせるのではなく、一字の書から書き始めていく。一字の書を自分なりに丁寧に速く書けるようにということを目標にさせながら、毛筆で書いて確かめさせ自ら気付いたり体感したりすることを大切にしたい。

#### ○ 指導にあたって

書写活動では、行書の特徴を的確に捉え、毛筆によって行書特有の筆遣いを確認させる。

行書は中学校の書写学習の中心的な内容であり、1年次にはその基礎を学習した。本単元においては、行書の基本的な筆遣いを思い出しながら、練習を多くさせて技術の定着を図る。文字を書く際には、手

本の文字を書写し、清書と称する作品づくりに終始させることなく、筆づかいを意識させ、行書の特徴を理解させたい。次に完成した文字のバランスや点画の太さや長さなど字形を整えさせる。この時、手本を参考にしながら字形や全体のバランスなどを考えさせ、自分の作品を修正させていく。グループや友達同士で互いの作品を批評させることも効果的であると考え。文字の上手下手だけを判断するのではなく、自己の進歩を確認したり、友達の良さや進歩を互いに認めたりするような相互評価の工夫や発表の場を設定し、生徒に充実感を味わわせたい。

#### 4. 本単元における言語活動の工夫と学習評価の工夫

##### ○ 言語活動の工夫について

自分が書いた書と友達のものごとを比較し、お互いの作品を評価し合う機会を設けることで、ただ書くというだけの作業にならないように配慮する。

##### ○ 学習評価の工夫について

ワークシートを配布し、自らの字を自己分析し記入させることでめあてを達成できているかなどの学習への取り組みをはかる。また、正しい姿勢で書写できているか、真剣に書けているかなどの授業中の姿勢も評価する。

#### 5. 単元の目標

- ・落ち着いた態度で話を聞き、書写の活動に意欲的に取り組む。【関心・意欲・態度】
- ・バランスを考えて行書を書く。【書く力・表現の能力】
- ・楷書と違った行書の筆遣いを理解する。【理解の能力】

#### 6. 本時の学習 平成 28 年 7 月 7 日 (木) 第 5 校時 2 年 3 組

- (1) 主 眼 ・書字過程を大切にし、適切に表現することができる。
  - ・表現の仕方について自身で評価したり互いに評価したりして、文字に対する自分の見方や考え方を深めることができる。
- (2) 準 備 書写道具 墨汁 新聞紙 半紙 雑巾 水の入ったペットボトル
- (3) 展 開

	主な学習活動・内容	指導上の留意点	【観点】評価規準 (方法)
導 入	<b>1. 挨拶</b> <b>2. 1 年次の復習</b> ●ワークシートを配布 ○1 年次に楷書・行書を学習したことを確認する。 ○「緑」の楷書・行書の違いを 5 つ考えて発表する。 ①点画の丸み ②方向や形の変化 (終筆の違い)	○黒板に「緑」の書を 2 種類貼り出して全体で考えさせる。 ○まずは自分で考えてワークシートに記入させ、その後発表させる。	○楷書と行書の違いを (思い出して) 見つけようとしている。(観察) ○行書には、楷書と異なる五

	③点画の連続 ④省略 ⑤筆順の変化		つの特徴があることを理解している。(発表・ワークシート)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>めあて</b> </div> <b>行書の特徴を生かして書いてみよう。</b>			
展 開	<b>3. 「和」の楷書と行書を比較する</b> ・縦画のはね ・楷書の4画目の左払いが折り返しになることと、5画目の点の省略 ・つくりの「口」へのつながり ・「口」の2画目から最終画への連続 ○「緑」の行書と同じ特徴があることを確認する。 <b>4. 机の上に書を書く準備をする。</b> ●手本を配布 <b>5. 手本を見ながら行書の特徴を意識して書く。</b> ○全体のバランス、筆遣いに気をつけながら書く <b>6. 手本と自分が書いた字を見比べてどこが違うのかを考える。</b> ○隣前後の人とも見比べてみる。 <b>7. 道具を片付けてワークシートを記入する。</b>	○本時では「和」という一字について学習していくことを伝え、ワークシートを見ながら2つの書体の相違点を探させる。  ○丸みがあることや省略が行なわれていることに気付かせる。 ○道具の配置図を掲示し、すばやく準備するように促す。 ○実際に書を書いて確認させる。 ○机間指導を行いながら10分ほど書かせる。 ○行書の特徴を生かして書けているかを確認させる。  ○どこがうまく書けなかったのか自分の感想とも合わせて考えさせる。	○点画の省略や筆遣いの違いについて意欲的に探そうとしている。(観察・ワークシート)  ○用具の扱い方を理解している。(観察) ○正しい姿勢で書けている。(観察) ○点画の省略するときの筆遣いを理解している。(観察) ○字形やバランスに注意して書けている。(観察)
ま と め	<b>8. 自己評価</b> ○「うまくいったところ」「うまくいかなかったところ」を自分で確認する。 ●ワークシートを回収する。	○各自がしっかり自己評価できているかを確認する。	○本時のめあてが達成され、積極的に活動が行われた。(ワークシート)